

(様式1)

令和7年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名 (所管課)
富山県中央植物園 森林政策課

2 施設所在地
富山市婦中町上轡田42

3 施設設置年度
平成5 年度

4 設置目的
県民に植物に関する多様な学習と憩いの場を提供し、県民の教育及び文化の向上並びに福祉の増進に寄与することを目的とする。

5 施設概要
敷地面積：244,919.61㎡
主な施設
・管理研修棟：鉄筋コンクリート造2F 1,949㎡
・サンライトホール（催し広場）：鉄筋コンクリート造平屋 1,614㎡
・ドリアスホール（多目的小ホール）：木造平屋 155㎡
・展示温室：鉄骨平屋5棟 2,839㎡
・屋外展示園：日本・世界のゾーン等 163,200㎡

6 指定管理者
公益財団法人 花と緑の銀行

7 指定期間
5 年
令和4年4月1日 ～ 令和9年3月31日

8 利用者数及び利用（使用）料金収入の状況

(1) 利用者数（人） ※この他、参考となる指標があれば追加

R3	R4	R5	R6	R7
108,483	129,367	111,657	120,425	121,988

(2) 利用（使用）料金収入（千円）

R3	R4	R5	R6	R7
14,365	21,964	18,759	17,583	20,014

(3) 利用料金収入見込み額（利用料金制導入施設の場合）

R3	R4	R5	R6	R7
16,812	15,812	16,112	16,412	16,712

9 評価項目

(1) 利用者数・収入の増減に対する評価

さくらまつりは、ソメイヨシノの開花が例年並みであったが、夜間開園中寒い日が続いたことにより(前年比-2℃)、期間中、前年度より4,015人入園者が減少した。
また、7月としては過去10年間で最高の猛暑日(16日間)を観測し、入園者数に減少がみられたが、8月には初開催となる夕涼み植物園が好評で3日間で3,549人の入園者があり、8月の入園者数としては、全面開園以来の8,759人と好調であった。秋期は、天候に恵まれず、入園者が減少したが、11月には暖かい日に恵まれ、特にラン展には2,000人を超す入園者があり、11月としては開園以来最多の入園数となった。また12月もウィンターフェスに約2,500人の入園者となり、こちらも開園以来最多の月となった。
3月末のさくらマルシェも好調な滑り出しを見せた。
総じて浮き沈みはあったものの、冬場の天候回復も影響し、年間入場者数は121,988名と令和6年度の120,425人と比較して1,563人増加し、開園以来3番目の入場者数を記録した。
利用料金収入は、年間入場者数の増加に加え、近年の物価高騰等から令和7年3月から入園料を改定(値上げ)の影響により、前年度比113%増加。

(2) サービス向上に向けた取組み

- ・イベントのweb申込みが順調で、植物園くらぶ、ボタニックガーデンクラブ、ワークショップなどにも拡大し、申込者の利便性を向上。
- ・公式インスタグラムで見頃の植物やイベントの情報発信を随時実施(フォロワー数大幅増加、前年より1,513人増)

(3) 利用促進(収入増)に向けた取組み

- ・ドリアスショップで販売するオリジナルグッズの種類を増やし、販売を強化。
- ・植物園イベント情報等を、県公式LINEや富山県観光公式サイトに掲載し、引き続き、広報を強化。
- ・新たな夜間開園「夕涼み植物園」を夏に実施し、縁日やお化け屋敷などの雰囲気、植物で演出し、集客増を図った。

(4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

①アンケート結果

実施方法	実施期間：通年 実施方法：インフォメーションコーナーにアンケートBOX設置
回答者数	252
結果	回答者の100%がまた来たいと回答。
結果を踏まえた改善事項	20～40歳台の入園が低調で、この層の更なる来園対策が必要。

②その他利用者の声を反映させる取組み

財団独自に第三者からなる事業評価委員会を開催し、各方面からの意見を伺い、事業運営に反映。

③主な苦情と対応

- ・サンライトホールウッドデッキの老朽化に伴う、立入禁止措置に対して苦情があり、令和7年度にて改修。
- ・70歳以上入園料無料に伴う、年齢確認書類の提示の際に激しい拒否反応を示したり、苦情を言う入園者がみられ対応に苦慮しているが、丁寧に時間をかけ説明。
- ・スタンプラリーに一人で複数応募する方もあり、理解を求めた。

(5) 個人情報保護の取組み

個人情報に関する指針を定め、職員へ周知。

(6) 関係団体との連携

- ・富山県植物公園構想に基づく植物公園連絡協議会の事務局として、植物園スタンプラリーの実施、合同研修会の開催、情報交換を実施。
- ・博物館実習、14才の挑戦、教員研修、インターンシップ、適応指導教室などの研修等を受入。
- ・富山県蘭協会や富山サボテン会、ウチョウラン保存会、富山県生物学会など、県内各種団体と連携し、多彩なイベントを開催。
- ・関係団体に講師等として職員の派遣や、各種委員を受託。
- ・(公社)日本植物園協会主催の大会・総会等への参加、植物多様性保全拠点園ネットワークへの参加。
- ・国内植物園のほか、イギリスオックスフォード大学植物園などの海外植物園との共同研究、種子交換、文献交換を実施。
- ・地域連携として、大型ショッピングセンター内でのスイーツ割引クーポンの配布や大型ビジョンでのイベントの紹介、ポスター掲示やチラシ等の配布、校下のウォーキング会での利用、また、お花見フェアやサマーマルシェ、ウインターフェスでの県内生産者、農業高校、雑貨・クラフト展の出店など実施。

(7) 施設・設備の維持管理

設備の定期的な点検・保守を実施。また、経年劣化した設備・機器を順次修繕。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

- ・富山県中央植物園危機管理マニュアルに基づき、園内各施設で日常点検を実施。
- ・富山県中央植物園消防計画に基づき、火災の予防、防災訓練を実施。

10 所管課の管理運営確認状況

- ①定期報告の受理
- ②維持管理・運営状況等の担当職員現地確認
- ③個人情報に関するトラブルの有無
- ④危機管理・安全管理上のトラブルの有無

有／無	回数(有の場合)
有	12
有	4
無	—
無	—

【トラブルの具体的内容と対応】

特になし

11 今後の課題等 (収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載)

- ・入園者の増加に向けた新たな魅力の創出や自主事業の立案。
- ・特に、雨天時の集客が減となるため、雨天時でも楽しめる展示及び企画の開発。
- ・施設や設備の老朽化に伴う、来園者の安全を最優先に考えた運営や修繕計画の策定。